

小原良孝著「白神どうぶつ讃歌―」

動物57種の多様性紹介

弘前大学名誉教授の小原良孝さんが白神山地に生息している動物に焦点を当てた「白神どうぶつ讃歌」白神の森で出あった動物たち」が同大学出版会から刊行された。小原さんが同大農学生命科学部を定年退職した後、3年半にわたって撮りためた動物の生態写真や、動物学者の視点からの分かりやすい解説などを通して、白神山地の生物の多様性について紹介している。

同書では、弘大白神自然観察園やその周辺の山々を中心に出会った動物の中から57種類をピックアップした。森林でもよく見られたニホンザルやカワガラス、

大川溪流のほとりではばったり出くわしたジムグリといった哺乳類、鳥類、爬虫類、および両生類をそれぞれ取り上げている。無脊椎動物では、色が目立たない、経験を積んだ人でなければ見つけにくいという冬虫夏草や、チョウに間違われる昼飛ぶガ・キンモンガなど昆虫類が中心。生活痕や雪上の足跡など動物たちのフィ

ールドサインも盛り込んで、白神の四季を楽しみながら生命の息吹も感じられる。

白神山地が日本初の世界自然遺産として登録され、今年30年となった。小原さんは前書きで「一般の多くの人に世界遺産を擁する白神山地のいろいろな動物を知っていただけるのではないかと」期待を込めた。

同書はA5判、100ページ、税込み3520円。弘前大学生協や県内の書店などで取り扱っている。問い合わせは、同大出版会(☎0172-393168)へ。



「白神どうぶつ讃歌～白神の森で出あった動物たち～」

※この記事は陸奥新報社の提供です。
[問合せ先]弘前大学出版会
hupress@hirosaki-u.ac.jp

この画像は、当該ページに限って陸奥新報の記事利用を許諾したものです。転載ならびにこのページへのリンクは固くお断りします。